

## 家原寺小学校4年生の「総合的学習」に参加して（報告） ～テーマ：ツバメの巣とねぐら入り～

写真 垣井 清澄  
報告 野口 隆司

### ■始まりは突然に

9月下旬に堺市立家原寺小学校4年生担任の赤澤先生から総合的学習の授業にゲストティーチャーとして「ツバメの集団ねぐら入り」の話しをしてほしいと、携帯電話に連絡が入った。先生の説明ではネット情報で本会がねぐら調査や観察会を開催したことを知り連絡したとの由。

家原寺小学校は西区にある“知恵の文殊さん”として知られる「家原寺」の東隣りにある小学校である。今までの活動の中で小学校の総合的学習の授業に関わるなど全く経験がなく、突然の依頼でもあり少し戸惑いながら本会のメンバーに相談することを伝え、後日返答することとした。

### ■総合的学習の狙いとは

本会が集団ねぐら入りの調査を始めたのは1994年に東区の初芝駅近くの「大津池」のヨシ原が最初であり、今年の美原区の「今池」での調査を含めて31年目になる。以前から子供達にツバメのねぐら入りの生態を知ってほしいと思っていたが、小学校の授業の中で話しができる又と無い機会であった。折角なのでツバメの巣の見守りを中心に活動をされている「地域のツバメ見守り隊」の小坂さんにも声掛けをし、見守り隊の取り組みなどの話しをしていただくことにした。



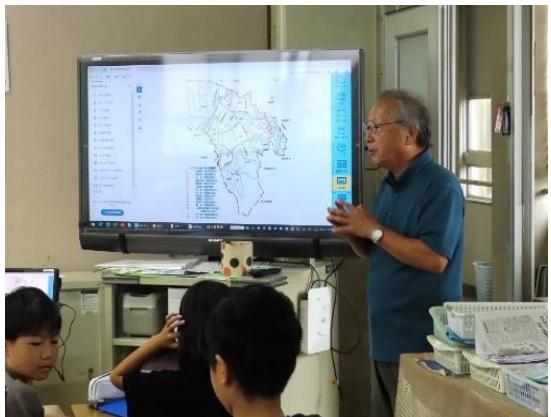
イラストを使ってツバメの生態を説明

事前に小学校に伺い赤澤先生にお会いして、二人で分担して「ツバメの渡り～巣築活動～集団ねぐら」などの生態を話すことを説明。一方、学校側でこの間のツバメに関する総合的学習での授業の概要などをお聴きした。

赤澤先生からツバメの数が少なくなっていることについて「何が原因で減少しているのか。」、「減らさないためにどうしたらいいのか。」などをテーマに、この間、校区内のフィールド活動としてJR津久野駅や周辺の店舗や民家等での巣築箇所のプロットマップを作製し廊下に貼りだしている。又、各自ノートに現地での巣づくりから抱卵、巣立ちまでの観察状況を写真やイラストを交えて記録している。さらに調べた

いことや分からないことについてクラスで話し合っているが、今回の授業で更に深めていけたらと考えているとのこと。午前10時45分から12時までの授業時間であるが、児童たちから沢山の質問があると思うので質問タイムをできるだけ長くしたいとの依頼であった。

先生からの説明や観察ノートなどを見せてもらい、この間の子供たちの取り組みの熱心さと学習レベルの高さに感心した。



### ツバメのねぐら入りの変遷を説明

#### ■楽しかった授業体験

10月3日(木)の授業当日、見守り隊の小坂さんと本会の垣井さんと私の3人が出席し、38名の児童達と初顔合わせ。まずは自己紹介と2つの団体活動を紹介し、授業を開始。

最初に小坂さんから、以前に比べて巣作りできる民家が少なくなっていることや天敵のカラスなど避けるために人が多く行き交う鉄道駅舎や郊外の道の駅の建物の軒下で「ルースコロニー（間隔を空けながら集団で巣をつくる）」の傾向があることなど、巣づくりから巣立ちまでの生態を説明。又、見守り隊では建物所有者に巣を壊さないでほしい旨のお願いやヒナのフン受け板の設置、卵やヒナがカラスやイソヒヨドリに襲われるのを防ぐネット張りなどを取り組んでいることを報告された。

本会からは巣立った子ツバメや子育てを終えた親ツバメが晩夏から東南アジアに渡るまで河川や溜池のヨシ原に日没頃に餌場の各地から集まり、外敵から身を守るために集団でねぐらをつくり翌朝の夜明け前にねぐら立ちをすること、奈良市にある平城



活発に質問の手を挙げる子供達

宮跡や淀川のヨシ原でのツバメのねぐらに比べて、堺市域や周辺では溜池の埋立て開発でヨシ原が無くなったりして、この30年間に15回、ねぐらの場所をかえていることが特徴であること、ヨシ原はつばめのねぐらだけでなく多様な生き物の生息場所であり残り少ないヨシ原を保全することが大切であることなどを説明した。

最後に本会の垣井さんから今池のヨシ原に15,000羽を超えるツバメがねぐら入りしている動画や小坂さんからは親鳥がヒナにトンボを与える動画を放映した。

本会が7月27日に開催したツバメのねぐら入り観察会で目の前や上空高く飛び交うツバメの群れに参加者から歓声が沸く動画シーンに子供達が見入っていたのが印象的だった。来シーズンは是非とも実体験してほしいなと思った。

その後、約30分間の児童からの質問タイム。活発な挙手があり途切れないと質問があった。「ツバメはどのようにして水を飲んでいるのか。」、「東南アジアに渡って翌年に日本に帰ってくる子ツバメの生存率は?」、「渡りのルートをどのように決めているか。」、「海を渡っている途中、ツバメはどこで休んでいるのか。」など多岐に亘って質問が出され、紙面の関係で取り扱いの詳細は割愛させていただくが、あっと言う間に時間切れとなり授業を終えることができた。

最後に今回ツバメをテーマにした総合的学習に参加し子供達の生き生きした授業に触れることができ、本会の今後の活動の中でこのような機会を増やすことができればと願っている。